

保育園を利用する世帯のスケジュール制約の把握—宇都宮市内の保育園を対象として—

有賀 敏典¹・青野 貞康²・大森 宣暁³

¹正会員 国立環境研究所社会環境システム研究センター（〒350-8506 茨城県つくば市小野川16-2）
E-mail: ariga.toshinori@nies.go.jp

²正会員（一財）計量計画研究所都市交通研究室（〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-9）
E-mail: saono@ibs.or.jp

³正会員 宇都宮大学大学院工学研究科地球環境デザイン学専攻（〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2）
E-mail: nobuaki@cc.utsunomiya-u.ac.jp.

地方都市における子育て世帯の保育園送迎のスケジュール制約が明らかになっていない。また、子育てしやすい都市・交通政策を実現する上では、保育園の送迎のみならず、育児全般や家事を含めたスケジュール制約の把握を行う必要がある。仕事と生活の調和を図るためには、世帯のスケジュールを調整し、時間の使い方を改善することが望まれる。そこで本研究では、栃木県宇都宮市をケーススタディとしてアンケート調査を行い、保育園を利用する子育て世帯の基礎的な特性とスケジュール制約を把握した。今後は、活動交通シミュレータを用い、起床・就寝時間などの詳細な情報を尋ね、送迎以外の家事・育児活動の実行可否や、子供と過ごす時間の計測を行う予定である。

Key Words : *families with nursery school toddlers, households activity-travel behavior, provincial city*

1. はじめに

少子高齢・人口減少社会を迎え、子育てしやすい環境整備が急務になっている。特に、保育園を利用する子育て共働き世帯は、制約が厳しい中で世帯員のスケジュールを調整し、仕事と子供の送迎、家事を行っている。子育てしやすい都市・交通政策を客観的に評価するためには、スケジュール制約を把握することが不可欠である。これまで既存研究では、保育園の送迎可能性についていくつかの分析がなされてきた。例えば、瀬川¹⁾は、東京都世田谷区を対象に、保育所の立地、保育時間の延長、フレックスタイム制度導入等の施策を実施した場合の保育所に子供を預けて働くワーキングマザーの就業可能地域を空間情報を解析することで明らかにしている。また、河端²⁾は東京都文京区の保育園のアクセシビリティを空間情報を用いて解析し、通園・通勤が可能なエリアと保育園の立地のミスマッチを指摘している。さらに有賀³⁾は、東京23区に勤務し保育園送迎が必要な世帯に関して、夫婦それぞれの送迎可能性を活動交通シミュレータを用いて分析し、世帯としてのスケジュール制約を分析している。このように大都市における子育て世帯の保育園送迎に関するスケジュール制約については明らかになりつつある。一方で、交通手段や立地が大幅に異なる地方都市において、子育て世帯がどのような保育園送迎に

関するスケジュール制約を持っているのかは明らかになっていない。

さらに、子育てしやすい都市・交通政策を実現する上では、保育園の送迎のみならず、育児全般や家事を含めたスケジュール制約の把握を行う必要がある。近年では、男女ともに仕事と生活の調和を図る必要性が指摘されている⁴⁾。仕事と生活の調和を図るためには、世帯のスケジュールを調整し、時間の使い方を改善することが望まれる。

そこで本研究では、栃木県宇都宮市をケーススタディとして、保育園を利用する子育て世帯の基礎的な特性とスケジュール制約を把握することを目的とする。

2. アンケート調査概要

栃木県宇都宮市での子育て世帯のスケジュール制約を把握するため、アンケート調査を行った。この調査は、平成27年2月に、宇都宮市内の私立認可保育所計3か所にて、子供が入所する世帯を対象にして実施した。調査概要を表-1に示す。

調査票は、A4サイズの計6ページで、「共通シート」2ページ（子供の父母どちらかが回答）、「お父さんシート」2ページ（子供の父親が回答）、「お母さんシート」2ページ（子供の母親が回答）から構成される。

「お父さんシート」と「お母さんシート」の質問項目は同一である。また今後、活動交通シミュレータ (Activity Rescheduler with Interactive Generation of Alternative Travel Opportunities) ³⁾を用いた、政策への意向調査を予定しているため、参加協力の意向のある方にはメールアドレスを記入してもらった。

3. アンケート調査協力者の特性

スケジュール制約の分析に先立ち、アンケート調査協力者の特性について分析する。なお、表-1のとおり259世帯分を回収したが、一部データの欠損があった。そのため、以下の分析では当該設問の欠損値を除いたサンプルの結果となっている。

(1) 基本特性

図-1に、世帯の子供の人数、最年少の子供の年齢、祖父母との同居・近居情報を示す。特徴としては、大都市圏に比べ祖父母の同居・近居が多いことが挙げられる。

図-2に、自動車の保有状況を示す。多くの世帯で、父母ともに自分専用の自動車を利用できる状況にある。

図-3に1週間のうち通勤する日数を示す。なお、一部勤務日数と一致していないものがある。これは、週4日以下の通勤の区分には、自営業やフリーランスなどの自宅で勤務する人を含んでいるためである。

図-4に勤務形態を示す。近隣に工業団地があることから、シフト制の人も一定数存在すると考えられる。

図-5に保育園を選ぶときに重視した項目について示す。自宅に近い、保育士・保育内容、認可保育所であることが重視されている。

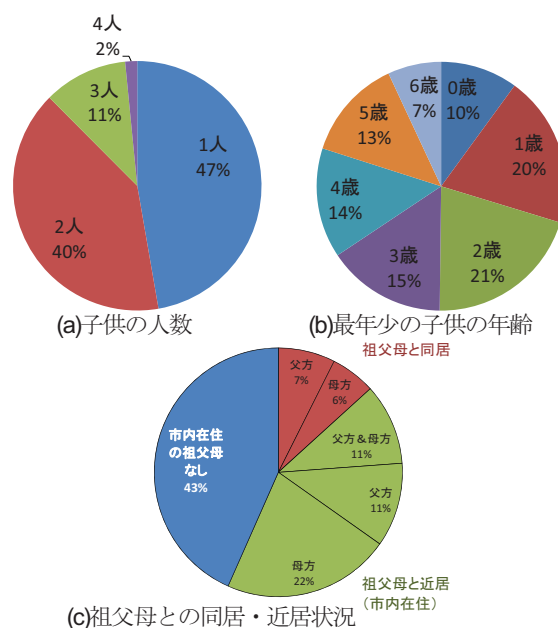


図-1 世帯の属性

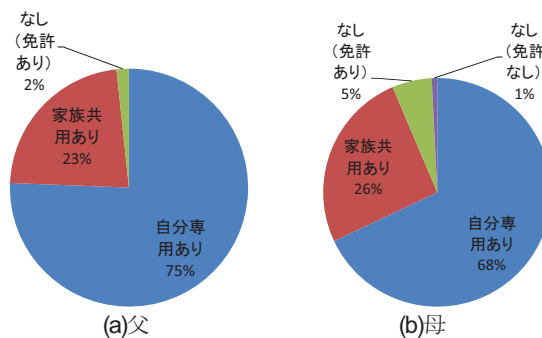


図-2 自動車保有

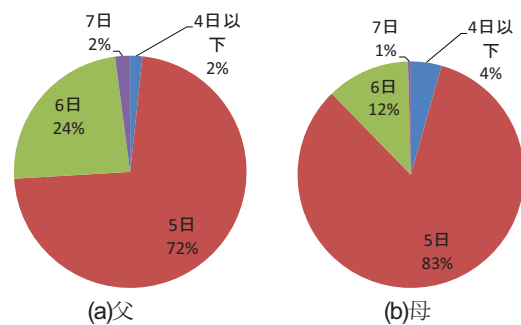


図-3 1週間の通勤日数

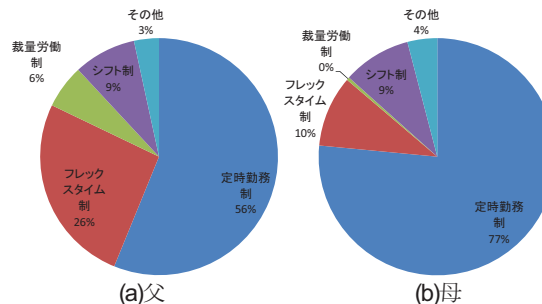


図-4 勤務形態

表-1 調査概要

調査実施時期	平成27年2月
調査票配布回収方法	直接配布直接回収
調査票配布・回収数	配布320世帯、回収259世帯 (回収率81%)
調査項目	<p>○共通シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所選択理由、子供の年齢、世帯構成、家事・育児の役割分担、居住地など <p>○お父さんシート、お母さんシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務形態、勤務開始・終了時刻、保育所送迎時刻および交通手段、自宅・保育所・職場間所要時間、勤務および送迎に関して困っていること、送迎に対する意識、仮想的な保育サービスに対する利用意向、勤務地など

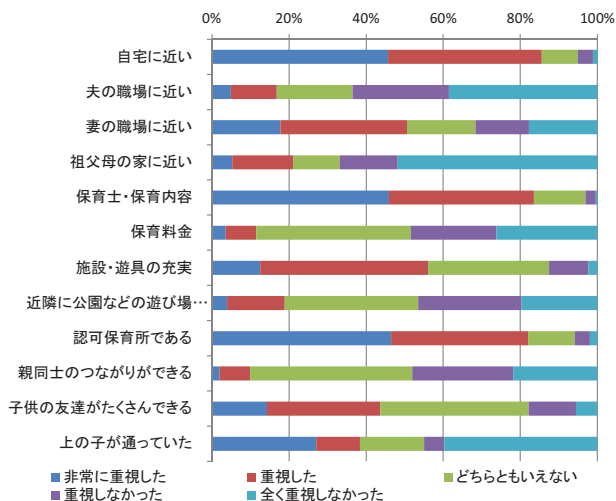


図-5 保育園を選ぶときに重視したこと

(2) 生活に対する意識・ニーズ

次に現在生活している上での子育てに関する意識や、要望などを尋ねた。

図-6に、現在の生活で困っていることを示す。母親では、保育園の駐車場が混雑する、子供が病気の時に預けられないが多い。父親では、これらに加え、勤務に関わる項目（突然の残業が多い、勤務終了時刻が遅い、子供が病気の時に早退しにくい）といった点も多く挙がってくるのが特徴である。

図-7に、送迎や家族と過ごす時間に関する意識を示す。送迎時の子供とのコミュニケーションは重要、子供と過ごす時間を増やしたいと思っている人が多い。子育てしやすい環境づくりという観点からは、こどもとコミュニケーションをとったり、一緒に過ごす時間をどのように増やすことができるかが課題であることがわかる。また、担任の先生や他の父母さんとの話は、男女間で若干意識が異なる見解となっている。

図-8に、保育園であつたら利用したいサービスについての結果を示す。病児保育や子供の習い事が上位に挙げられている。一方で、送迎サービスも一定数の需要がある。

図-9に、保育園に隣接してあると便利だと思う施設を示す。病院・医院が最も多く、特に小児科の需要が大きかった。

4. 世帯のスケジュール制約

本章では、アンケート結果から得られた、スケジュールに関するデータ（勤務開始・終了時刻、自宅・保育園・父職場・母職場の各地点間所要時間、交通手段）をもとに、現状のスケジュールを分析し、保育園送迎の実行可否について分析を行う。

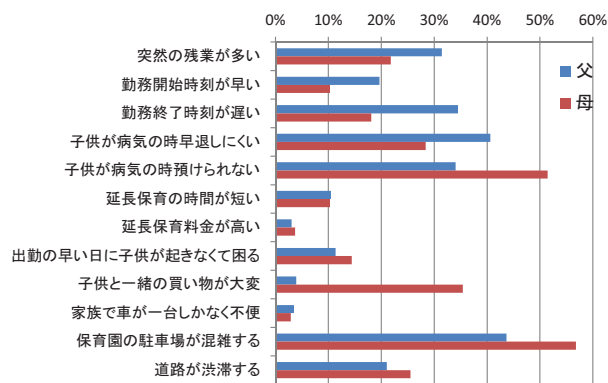


図-6 生活で困っていること

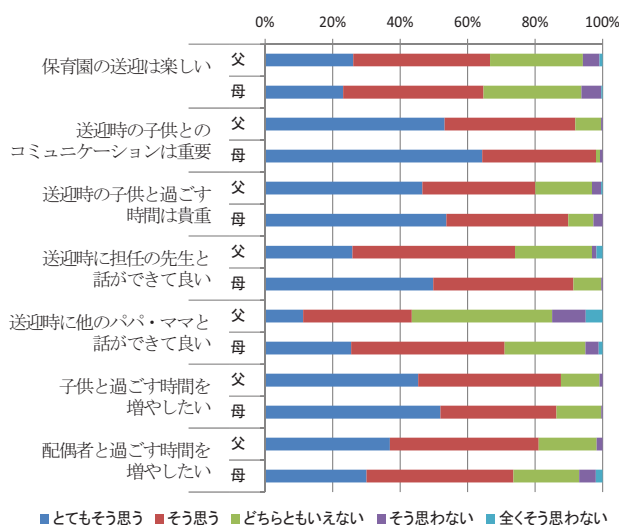


図-7 送迎や家族と過ごす時間に関する意識

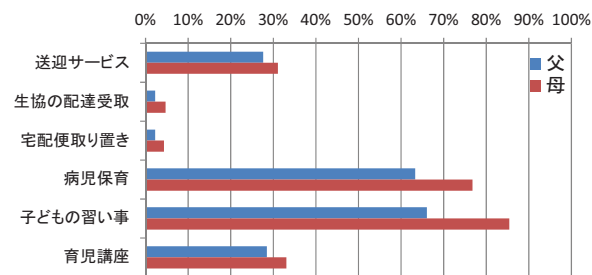


図-8 保育園であつたら利用したいサービス

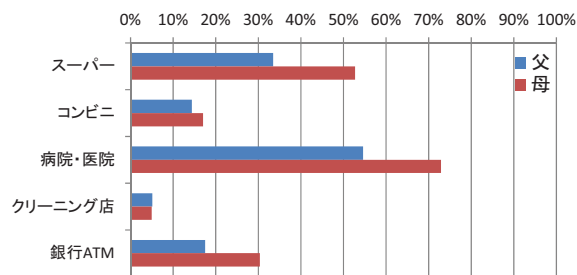


図-9 保育園に隣接してあると便利だと思う施設

(1) 現状のスケジュール

表-2に、父母別の勤務開始・終了時刻を示す。父の方が母より勤務終了時刻が遅い傾向にあり、大都市圏と傾向は同じである。

表-3に、地点間所要時間を示す。大都市圏に比べ、自宅・保育園間は同等で、自宅・職場間や保育園・職場間は大都市圏より短い傾向である。

表-3 地点間所要時間

	平均値	中央値
自宅⇔保育園	11分	10分
自宅⇔父職場	38分	30分
自宅⇔母職場	29分	20分
保育園⇔父職場	37分	30分
保育園⇔母職場	28分	20分

(2) 送迎の実行可否の判定

図-12に、保育園の送迎可否を示す。大都市圏同様、夕方の送迎が父が担当できないケースが増える傾向である。図-13に、現在の役割分担を示す。今後、活動交通シミュレータを用い、送迎以外の家事・育児活動についても詳細に尋ねることで、各種活動の実行可否や、子供と過ごす時間の計測などができると考えられる。

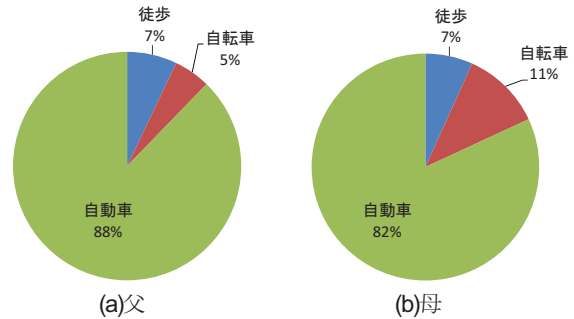


図-10 保育園送迎時の交通手段

5. 結論と今後の課題

本研究ではアンケート調査を用い、栃木県宇都宮市をケーススタディとして、保育園を利用する子育て世帯の基礎的な特性とスケジュール制約を把握した。

今後活動交通シミュレータを用い、起床・就寝時間などの詳細な情報を尋ね、送迎以外の実行可否や、子供と過ごす時間の計測を行う予定である。

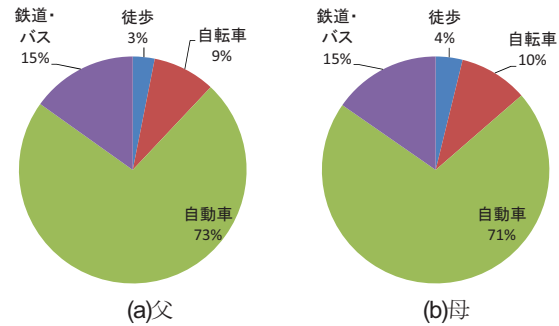


図-11 通勤時の交通手段

謝辞

本研究は、科学研究費補助金（基盤B）（代表：大森宣暁）「子育てしやすい働き方の探求と実現のための施策の立案および評価に関する研究」の一環として行ったものである。また、アンケート調査の実施においては、社会福祉法人峰陽会（金崎英美子理事長）のご協力を得た。ここに紙面を借りて謝意を表します。

参考文献

- 1) 瀬川祥子：就業と育児の両立を図る施設計画の検討，東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士論文，1996.
- 2) 河端瑞貴：待機児童と保育所アクセシビリティ—東京都文京区の事例研究—，応用地域学研究，Vol. 15，pp.1-12，2010.
- 3) 有賀敏典，青野貞康，山本徳洋，大森宣暁：活動交通シミュレータを用いた子育て共働き世帯の時空間制約分析，第50回土木計画学研究発表会講演集，2014.
- 4) 内閣府：平成 26 年版少子化社会対策白書，<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/index.html>，2014.

(2015.4.24 受付)

表-2 勤務開始・終了時刻

		平均値	中央値
勤務開始時刻	父	8 : 45	8 : 30
	母	8 : 47	8 : 48
勤務終了時刻	父	18 : 15	17 : 30
	母	16 : 51	17 : 00

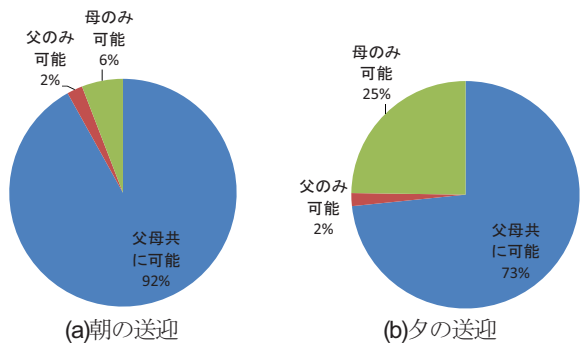


図-12 保育園送迎可否

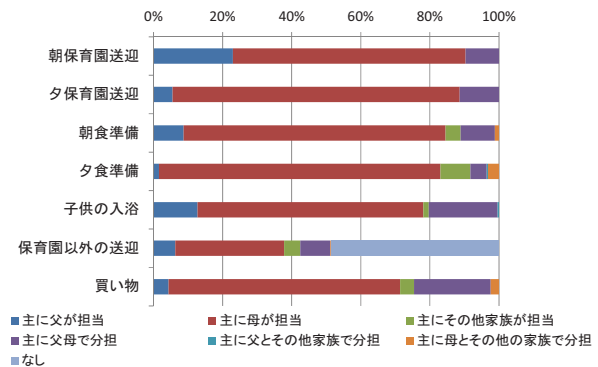


図-13 現在の役割分担